



性的マイノリティへの理解促進

牛久三中生徒、LGBTを考える

11月11日、牛久第三中学校でNPO法人RAINBOW茨城の滑川友理さんを招き、LGBTについての講演を行いました。滑川さんは、「セクシャリティはみんな違っていい。SOGIハラスメント(差別的な言動)は絶対にしないほしい。見えないことだから配慮が必要」と訴えました。その上で、「自分や人の命を大切にほしい、辛いときは誰かに相談すること」と呼びかけました。及川芽生さん(中3)は、「LGBTの人たちは私たちと何も変わらない。何気ない言葉で相手を傷つけることもあるので気を遣っていききたい」と話していました。



中学生の目線で観光客を誘致

牛久一中生徒、シャトー観光客増加を

今年度、牛久第一中学校の3年生は「日本遺産牛久シャトー観光客増加案」について取り組み、この度、企画書が完成しました。10月28日にはその企画書について市関係課や牛久シャトー(株)の職員を招き、「広告」、「マーケティング」、「現場」、「コンサル」のグループに分かれ、プレゼンテーションを行いました。職員等からの講評に対し、生徒からは「自分たちはSNSの活用などで世代に合わせて情報を発信していけたらと思う。これからも探究心をもち、牛久シャトーの課題に取り組んでいきたい」と話しました。



冬に向けて出荷最盛期

ブロッコリー目揃会開催

11月10日、JA水郷つくばブロッコリー生産部会は、ブロッコリーの出荷時の規格を決める目揃会を牛久集出荷場(小坂町)で開催しました。

板倉良昌部会長は、「今年も花蕾(つぼみ部分)がしっかり詰まったとても質の良いものができました。ぜひ多くの方に味わっていただきたいです」と話していました。

このブロッコリーは、年末年始に向けて約6,000ケース、24tが出荷される予定で、市内直売所やスーパーの直売コーナーなどにも顔を連ねます。



体操普及で介護予防

うしくかっぱ体操普及員19回生誕生

今年度、4人の市民の方がうしくかっぱ体操普及員養成講座を修了し、普及員としての第一歩を踏み出しました。うしくかっぱ体操は、転倒予防のために重要な要素である「筋力」「バランス」「柔軟性」の強化を盛り込んだ牛久市オリジナルの体操です。介護が必要になる主な原因のひとつは転倒です。転倒を予防することは介護予防につながります。市では、体操を地域に広く普及するため、普及員を毎年養成し、区民会館などで、体操を実践し、地域で介護予防に取り組んでいます。ぜひお近くの会場に足を運んでみませんか？



姉妹都市の秋を堪能

姉妹都市交流事業「常陸太田市見学ツアー」で市民団が訪問

11月12日、姉妹都市・常陸太田市との交流を目的に「常陸秋そばフェスティバル里山フェア2022」見学ツアーが行われました。3年ぶりの常陸太田市との交流再開を喜びつつ、39人の参加者は、宮田達夫常陸太田市長らの歓迎を受け、紅葉が映える竜神大吊橋や里見のかかし祭りの見学、秋そばフェスティバルでの食事や道の駅での買い物と盛りだくさんのツアーを楽しみました。



1 参加者は常陸太田市の方々に歓迎を受けました

2 常陸太田市長(右)と牛久市長(左)

秋のイベント開催

「Waiワイまつり」、「牛久市民文化祭」開催

11月3日、3年ぶりに開催された「うしくWaiワイまつり」。天候に恵まれたこの日、商工会・観光協会加盟店舗の商品や農作物、姉妹都市の特産品を買い求める人たちが賑わいました。

また、10月13日～11月6日には「牛久市民文化祭」が催されました。期間中、市民によるステージ発表や絵画、盆栽や陶芸などの展示が行われました。

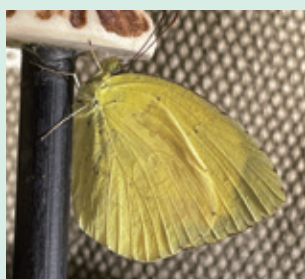


1 多くの人たちが賑わいをみせた「うしくWaiワイまつり」

2・3 文化祭での陶芸の展示と太極拳の発表

キタキチョウ(北黄蝶)

チョウ目シロチョウ科



枯草や茂みに6回発生し、成虫は年に5、観察され、道端、市街地などで普通に観察されます。

黄色い色が目立つ、モンシロチョウよりひとまわり小さいチョウです。幼虫の食草はネムノキやハギなどのマメ科の灌木類で、草原や畑、道端、市街地などで普通に観察されます。成虫は年に5、6回発生し、枯草や茂みに潜って成虫のままで越冬するため、冬でも暖かい日には活動するのが見られます。少し前までは日本産の本種は「キチョウ」1種とされていたため、図鑑によっては「キチョウ」と掲載されているものもありますが、最近の研究で2種に分けられ、南西諸島以南に分布するものと区別するため「キタキチョウ」と命名されました。

しぜん大好き

～牛久の生物～

問 都市計画課 ☎内線2524

『牛久市版レッドデータブック追補版(令和2年3月発刊)』に掲載している植物を「牛久の希少植物」として紹介していきます。



ハバヤマボクチ(葉場山火口)

- ①本体(平成10年10月10日撮影)
- ②葉裏(平成21年10月31日撮影)
- ③花(平成15年10月17日撮影)

第19回

ハバヤマボクチ

キク科

「僕んち」と聞こえる愉快な和名。低山地の草刈場(葉場)で採れる火を移し取る物という意味で、ごぼう(葉場)の裏の、白い綿毛(写真②)が火口として利用されていました。秋、明るいススキ野で1～2mに直立写真①し、アザミ様の花をつけます(写真③)。種子ができ

黒褐色となりつつも長くその大首を保つ姿が趣深いです。日本固有種で関東以西に多くみられます。関東以東に多いのはオヤマボクチ「雄山火口」。昔からヤマゴボウの異名で若葉団子や天ぷら、保存食の凍り餅に利用されました。ただ、漬け物で有名なヤマゴボウは主にモリアザミの根で、この根は有毒だから気を付けて。※本書39ページに掲載。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会 文章：秋山由美子、写真：戸塚昌宏

「牛久市版レッドデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物」販売中※お求めは都市計画課まで(1350円)